若者ファッションや街並みを日本と比べる

山本希海

1　はじめに

今回のアウクスブルク市への派遣を通して、ドイツと日本では歴史や文化だけでなく、日々の生活のあり方にもさまざまな違いがあることを実感した。その中でも、私が特に関心を持ったのが、「若者のファッション」と「街並み」である。

日本における若い世代のファッションは、流行の影響を強く受けている。SNS や雑誌、動画などから流行を知り、それを自分の服装に取り入れることも多い。一方で、ドイツの街を実際に歩いてみると、日本とは少し異なる服装の人々が多いように感じた。また、アウクスブルクの街並みも日本の都市とは異なり、建物の高さや街の空間の使われ方に特徴が見られた。

そこで、ホストファミリーへの聞き取りから得たドイツの若者のファッションについての考え方を日本と比較するとともに、実際にアウクスブルクの街を歩いて感じた街並みの特徴について考察する。

2　ドイツと日本の若者のファッション

ホストファミリーにドイツの若者のファッションについて尋ねたところ、まず挙げられたのが「実用性を重視する」という点であった。着心地の良さや通気性、機能性など、日常生活を快適に過ごせるかどうかが、服を選ぶ際の重要な基準になっているという。

その背景には、ドイツの気候も関係していると考えられる。雨の日も多く、ハイキングなどの屋外活動をする人もいるため、動きやすさや機能性を重視した服装が選ばれることが多いそうである。このように、ファッションにおいても「実際の生活で使いやすいか」ということが大切にされている点が印象に残った。

もちろん、ドイツの若者に流行がないわけではない。ホストファミリーによると、ストリートファッションやアーバンファッションも存在し、特に若い女性はスカートよりもズボンを好んで履くことが多いという。しかし、重要なのは「おしゃれをしている」と強く主張することではなく、自然でカジュアルに見えることであるという。

一方、日本の若者のファッションは、服だけでなく、メイクやアクセサリーなども含めたコーディネートによって、自分の個性や「好きな世界観」を表現する側面が強いように感じる。また、SNS などを通して周囲からどのように見られるかを意識し、流行している服やアイテムを取り入れることも多い。

これに対してドイツでは、「人からどう見られるか」ということ以上に、「自分が快適に過ごせること」や「その場や気候に合っていること」が重視されているように

感じた。今回の話を聞いて、ドイツではファッションを楽しみながらも、実用性や自然体であることを大切にしているのではないかと考えた。

3　アウクスブルクの街並み

ファッションと同じように、日本との違いを強く感じたのが街並みである。

アウクスブルクの街を実際に歩いて、まず気づいたのは、全体的に建物の高さが低く、街並みが落ち着いていることであった。日本の都市部では、駅周辺や繁華街を中心に高層ビルやマンションが立ち並び、限られた土地を有効に使うために、建物を上へ伸ばしていくような街づくりが多く見られる。それに対してアウクスブルクでは、歴史を感じさせる建物が多く、周囲の建物と高さを合わせるように並んでいるように感じた。

特に印象に残ったのは、古い建物が単に保存されているだけではなく、現在の街の中で実際に使われていることである。日本でも歴史的な建物を残している地域はあるが、アウクスブルクでは、歴史的な建物が商店や住宅など、現在の人々の生活の中に自然に溶け込んでいるように感じた。

また、街を歩いていると、建物だけでなく道路や広場などにも日本との違いを感じた。日本の都市部では建物や道路が密集している場所も多いが、アウクスブルクでは、人々が歩いたり、立ち止まったりするための空間が比較的ゆったりと確保されているように見えた。そのため、街を歩いていても圧迫感が少なく、落ち着いた雰囲気を感じることができた。

このように、アウクスブルクでは歴史的な街並みを残しながら、現在の人々の生活にも自然に活用している点が特徴的であると感じた。

4　ファッションと街並みから考えたこと

若者のファッションとアウクスブルクの街並みを日本と比較する中で、私はこの二つには共通する考え方があるのではないかと感じた。

ドイツのファッションでは、実用性や自然体であることが重視されている。それと同じように、アウクスブルクの街並みにおいても、過度に新しいものを取り入れるのではなく、歴史的な建物を大切にしながら、現在の生活の中で活用している姿が見られた。

もちろん、これはドイツのすべての人や街に当てはまるわけではない。しかし、今回実際に現地で生活し、ホストファミリーから話を聞いたことで、「新しいものを取り入れることだけが良いのではなく、すでにあるものを大切にしながら、自分たちの生活に合わせて使っていく」という考え方が、ファッションや街並みの両方に表れているように感じた。

また、日本とドイツでは、それぞれの歴史や気候、生活環境が異なるため、ファッ

ションや街のあり方にも違いが生まれるのだと考えた。日本では流行や周囲からの見え方を意識したファッションが発展している一方で、ドイツでは気候や活動に合わせた実用性が重視される。この違いは、単なるファッションの好みではなく、それぞれの生活環境や文化とも関係しているのではないだろうか。

実用性や自然体であることを大切にするドイツの若者のファッション、そして歴史的な建物を残しながら現在の生活に取り入れているアウクスブルクの街並み。日本とドイツを比較することで、どちらが優れているということではなく、それぞれの土地の歴史や気候、文化、生活環境が、人々の価値観や街のあり方に影響を与えているのだと感じた。

5　おわりに



